

令和6年度 1学年 数学科 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				主体的に 学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4	0章 算数から数学へ	3	○自然数, 素数, 素因数分解	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより, 整数の性質を見いだそうとしている。	・自然数をいくつかの数の積で表すことにより, 整数の性質を見いだし表現することができる。	・自然数, 素数, 素因数分解の意味を理解している。 ・素因数分解の一意性を理解し, 自然数を素因数分解することができる。
5	1章 正負の数	25	○正負の数の四則計算をする。 ●計算のしくみを理解し, 問題演習に取り組む。正負の数の計算を利用してできる身近な問題の解決方法を考え, 話し合い・発表をする。	正負の数を用いて, 計算をしようとする。 具体的な場面で, 正負の数を用いて処理をしようとする。	交換法則や結合法則, 分配法則を利用して, 計算を工夫することができる。 具体的な場面で, 正負の数を用いて表現することができる。 数の範囲と計算の可能性の関係を考えることができる。	正負の数の四則計算ができる。 具体的な場面で, 正負の数を利用して処理することができる。 正負の数の意味を理解し, 交換法則や結合法則, 分配法則が成り立つことを理解している。 数の範囲を広げることによって, それまでできなかった計算ができるようになることを理解している。
6	2章 文字と式	16	○文字を使っていろいろな数量を式で表す。1次式の四則計算をする。 ●文字使用のきまりや計算のしくみを理解し, 問題演習に取り組む。自分の考えをまとめ, 話し合いや発表をする。	文字を用いて数量の関係や法則を式に表現したり, 式の意味を読み取ろうとする。 次式の加減や, 数との乗除を計算しようとする。	いろいろな数量を式で表したり, 表された式の意味を読み取ることができる。 数量の間の関係を等式や不等式で表したり, 等式, 不等式で表された関係を読み取ることができる。	文字式の表している数量を読み取ることができる。 1次式の加減や, 数との乗除を計算することができる。 文字を用いることの必要性和意味を理解している。 文字使用のきまりを理解している。 式と係数の意味を理解している。 等式, 不等式の意味を理解している。
7	3章 方程式	14	○数量の関係を方程式で表し, 方程式や比例式を解く。 ●方程式の意味を理解し, 解き方のしくみを考え, 問題演習に取り組む。方程式を利用した身近な問題の解決方法を考え, 話し合い・発表をする。	等式の性質に関心をもち, それを利用して方程式を解こうとする。 具体的な問題で, 方程式を利用して解決しようとする。	数量の間の関係を, 方程式で表すことができる。 方程式を利用して身近な問題を考えることができる。	等式の性質や移項の考えを使って, 方程式を解くことができる。 比例式を用いて値を求めることができる。 方程式とその解の意味を理解している。 等式の性質を理解している。 方程式を使って問題を解くときの手順を理解している。
9	4章 比例と反比例	22	○比例・反比例の性質を学ぶ。身のまわりにある比例・反比例を考える。 ●比例・反比例の性質を理解し, 問題演習に取り組む。比例・反比例を利用した身近な問題の解決方法を考え, 話し合い・発表をする。	比例・反比例の値の変化に関心をもち, その特徴を調べようとする。 身近な問題で, 比例や反比例の特徴を利用して問題を解決しようとする。	比例・反比例の特徴を, 適切に説明することができる。 比例や反比例の見方・考え方, グラフなどを利用して, 具体的な場面の問題を解くことができる。	比例や反比例の関係を, 式で表現したり, その特徴を読み取ったりすることができる。 比例や反比例の関係を, グラフで表現することができる。 比例・反比例の意味や比例定数の意味を理解している。 平面上の点の座標を求めたり, 2つの数の組を, 平面上に表す方を理解している。
10	5章 平面図形	17	○図形の移動のしかたや, 作図の方法, おうぎ形の性質を学ぶ。 ●図形の移動のしかたを理解し, 図形が移動した方法を考え, 発表する。基本の作図法をどのように活用すれば作図ができるかを考え, 発表する。	図形の移動に関心をもち, さまざまな図形を考察しようとする。 図形の性質を利用して, いろいろな作図をしようとする。	移動の性質を調べて, 図形の考察に利用することができる。 作図の手順を見通しをもって考え, その手順を説明することができる。	定規とコンパスを使っていろいろな作図ができる。 平面図形に関する用語や記号の意味を理解している。 平行移動, 対象移動, 回転移動の意味や性質を理解している。 いろいろな作図方法を理解している。
11	6章 空間図形	18	○いろいろな立体の性質を学ぶ。空間における直線や平面の位置関係を理解する。立体の体積や表面積を求める。 ●いろいろな立体を比較し, 共通点や相違点を見つけ, まとめる。空間における直線や平面の位置関係を想像し, 考えを発表する。体積や表面積の求め方を理解し, 演習問題に取り組む。	空間図形を, 見取図や展開図を用いて平面上に表し, その性質を調べようとする。 柱体や錐体の表面積や体積の求め方を, 立体の観察, 操作や実験を通して調べようとする。	見取図や展開図を適切に用いて, 空間図形の性質を見だし, 考えることができる。 観察, 操作や実験などを通して, 立体の体積や表面積の求め方を考えることができる。	見取図や展開図を用いて空間図形を表したり, 見取図や展開図から空間図形の性質を読みとったりすることができる。 柱体や錐体の表面積や体積を求めたり, その求め方を説明したりすることができる。 見取図, 展開図の意味を理解し, それぞれの役割と特徴を理解している。 立体の表面積や体積について, その求め方を理解している。
12	7章 データの分析と活用	10	○度数分布表やヒストグラム, 代表値など, 資料の整理のしかたを理解し, 分析のしかたを学ぶ。 ○ことがらの起こりやすさの表し方を学ぶ。 ●度数分布表やヒストグラム, 代表値などを用いて資料を整理し, そこから読み取れる資料の特徴を考え, 発表する。	・ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。 ・ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり, 多面的に捉え考えようとしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	・目的に応じてデータを収集して分析し, そのデータの分布の傾向を読み取り, 批判的に考察し判断することができる。 ・多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして, 不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	・ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ・累積度数, 累積相対度数の必要性和意味を理解している。 ・代表値や範囲の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。
1						
2						
3						
	復習	15	○1年間の学習内容を振り返る。 ●ワークやプリントなどを活用し, 内容を復習する。	ワーク・プリント等	ワーク・プリント等	ワーク・プリント等
	評価方法			授業における変容, 提出物等の内容	定期考査, 提出物, 課題等の内容	定期考査, 提出物, 課題等の内容
	比率			1/3	1/3	1/3

令和6年度 2学年 数学科 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	評価規準		
			主体的に 学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5	1章 式の計算	15	○加減乗除の計算の方法に関心をもち、計算したりしようとしている。	○加減乗除の計算方法について、考え考察することができる。	○加減乗除などの計算ができる。 ○多項式、単項式の意味を理解し、加減乗除の計算方法を理解している。
	2章 連立方程式	12	○加減法や代入法の基になっている考え方に基づいて連立方程式の解き方を考えようとしている。	○1次方程式に帰着すれば解けることを、具体例を通して気づき、連立方程式の解き方を考えることができる。	○連立方程式を加減法や代入法を用いて解くことができる。 ○加減法、代入法の解き方の手順を理解している。
7 9	3章 1次関数	19	○1次関数の値の変化に関心をもち、その特徴を調べようとしている。	○1次関数の値の変化を求め、反比例と比較するなど、1次関数の特徴を考察することができる。	○比例のグラフを基に、それを平行移動させて1次関数のグラフをかくことができる。 ○1次関数のグラフと比例のグラフの関係を理解している。
10 11	4章 平行と合同	15	○図形の合同に関心をもち、合同な図形の性質を調べようとしている。	○合同な図形の性質を見いだすことができる。また、証明の筋道を考え、説明することができる。	○合同な2つの図形を、記号を用いて式に表したり、式から、対応する辺や角を読み取ったりすることができる。 ○図形の合同の意味や性質を理解している。
12 1	5章 三角形と四角形	21	○二等辺三角形や平行四辺形のいろいろな性質に関心をもち、それらを見いだし、証明しようとしている。	○二等辺三角形や平行四辺形の性質を見いだし、証明することができる。	○二等辺三角形や平行四辺形になるための条件の証明において、辺や角の関係などを読み取ることができる。 ○二等辺三角形や平行四辺形になるための条件を理解している。
2	6章 確率	9	○場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 ○不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 ○確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。	○簡単な場合について確率を求めることができる。 ○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。
	7章 データの比較	5	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。	○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。
3	復習	9	ワーク・プリント等	ワーク・プリント等	ワーク・プリント等
評価方法			授業観察（発言、発表）、提出物等の内容	定期考査、提出物、課題等の内容	定期考査、提出物、課題等の内容
比率			1/3	1/3	1/3

令和6年度 3学年 数学科 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	評価規準		
			主体的に 学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
4 5 6	1章 多項式	19	○文字を用いた式で数量や数量の関係をつま説明することに関心を持ち、説明などに利用しようとしている。	○乗法公式や因数分解の公式を利用することができる。 ○展開や因数分解を利用して、数や図形の性質を考察することができる。	○乗法公式や因数分解の公式を利用して、数の計算をすることができる。 ○数や図形の性質の証明において、式を変形したり、式を読み取ったりすることができる。 ○図形の性質の証明や数計算に、展開や因数分解が利用できることを理解している。 ○文字を用いて一般的に説明することの必要性和、文字を用いることのよさを理解している。
	2章 平方根	16	○無理数の意味を知り、いままでの数との違いや共通点に関心を持ち、数を分類・整理しようとしている。	○正方形の1辺の長さなど、具体的な場面で、平方根を用いて事象を考察することができる。	○平方根の性質に基づいて、数の平方根を求めたり、根号の付いた数を変形したりすることができる。 ○不等号を用いて平方根の大小を表すことができる。 ○平方根の意味を理解している。 ○平方根の大小関係について理解している。 ○無理数、有理数の意味を理解している。
	3章 2次方程式	15	○2次方程式を利用することに関心を持ち、具体的な問題の解決に2次方程式を利用しようとしている。	○具体的な問題で、数量の間の関係をとらえて2次方程式をつくることことができる。 ○求めた答や解法が適切であったかどうかを、ふり返って考えることができる。	○具体的な問題で、数量の間の関係を理解し、つくられた2次方程式を解いて答を求めることができる。 ○2次方程式を利用して問題を解決する手順を理解している。 ○2次方程式では、解の吟味が必要であることを理解している。
9 10	4章 関数	17	○関数の値の変化に関心を持ち、グラフを基に考えようとしている。 ○変化の割合について関心を持ち、具体的な意味について考えようとしている。	○関数の変化の割合を、2点を通る直線の傾きとして捉えることができる。 ○変化の割合の具体的な意味として平均の速さについて考えることができる。	○関数の変域の対応を求めることができる。 ○関数の変化の割合を求めることができる。 ○関数の変域の対応や変化の割合を理解している。 ○関数の変化の割合は、2点を通る直線の傾きを表していることを理解している。
	5章 相似な図形	23	○三角形の相似条件に関心を持ち、それを利用して図形の性質を考察しようとしている。 ○平行線と比の性質に関心を持ち、その性質を調べようとしている。	○三角形の相似条件や既習の図形の性質を用いて図形の性質を見だし、それを証明することができる。 ○平行線と比の定理を、三角形と比の定理を基に証明することができる。	○相似を用いる簡単な証明において、辺や角の関係を読み取ることができる。 ○平行線と比の定理を、言葉や式などを用いて表したり、その意味を読み取ったりすることができる。 ○三角形の相似条件を理解している。 ○平行線と比の定理を理解している。
12	6章 円	10	○円周角と中心角の関係に関心を持ち、その関係を調べようとしたり、どのような図形の性質を用いて証明すればよいかを考えたりしようとしている。	○円周角と中心角の関係や、円周角と弧の関係、直径と円周角の関係をみいだすことができる。	○円周角と中心角の関係や、円周角と弧の関係、直径と円周角の関係をを用いて、円についてのいろいろな角の大きさを求めることができる。 ○円周角の定理の意味を理解している。 ○円周角の定理が証明できることを理解している。
1	7章 三平方の定理	13	○直角三角形の直角をはさむ2辺の長ささと斜辺を1辺とする正方形の面積の値の関係に関心を持ち、予想したことが証明できないか考えようとしている。	○直角三角形の直角をはさむ2辺の長ささと斜辺を1辺とする正方形の面積の値の関係をもとに三平方の定理を見だし、それを証明することができる。	○三平方の定理を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 ○三平方の定理を利用すると、直角三角形の辺の長さが求められることを理解している。
2 3	8章 標本調査	6	・標本調査の必要性和意味を考えようとしている。 ・標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	・標本調査の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。
	復習	21			
評価方法			授業への取り組み、提出物等の内容	定期考査、提出物、課題等の内容	定期考査、提出物、課題等の内容
比率			1/3	1/3	1/3